

# 健やかいずみ



## 50歳を過ぎたら知って おきたい帯状疱疹の話



皮膚科  
平田 央 先生

帯状疱疹とは、身体の左右どちらか一方に、ピリピリと刺すような痛みと、これに続いて赤い丘疹と小さな水ぶくれ(疱疹、ほうしん)が带状(おびじょう)にあらわれる病気です。この症状から、「帯状疱疹(たいじょうほうしん)」と呼ばれています。日本では毎年約55万人が罹患しているありふれた病気の一つです。

帯状疱疹は、他人からウイルスが感染して発病するので、帯状疱疹とは、身体の中に潜伏している水痘・帯状疱疹ウイルスによって起こります。小児期に水痘(みずぼうそう)に感染した時や水痘ワクチンを接種した時に、ウイルスが体内に侵入し、一部が神経節内に潜伏します。潜伏期間中に症状はありません。しかし、加齢やストレス、過労などによって免疫力や抵抗力が低下すると、潜んでいたウイルスが再び活動を始め、神経から皮膚にウイルスが到達し、帯状疱疹を発症します。ウイルスの活動によって、皮膚に水ぶくれができ、神経は障害されて非常に強い痛みがでます。水ぶくれが治ると痛

みも軽減する事が多いのですが、高齢者では痛みやしびれが数年から数十年残存することがあり、これを帯状疱疹後神経痛といいます。1年後に疼痛が残存するのは、帯状疱疹患者の約10人に1人ともいわれています。帯状疱疹の症状がひどい人ほど、長期間にわたる帯状疱疹後神経痛に悩まされるため、帯状疱疹の早期発見と早期治療をすることが非常に重要です。

水痘(みずぼうそう)の感染歴や水痘ワクチン接種歴のある人なら、誰でも帯状疱疹になる可能性があります。加齢に伴い発症しやすくなる傾向にあり、特に50歳を超えると発症率は急激に上昇します。そのため、50歳以上の帯状疱疹予防のために、水痘帯状疱疹ワクチンが2016年に承認されました。ワクチン接種により、帯状疱疹の発症を抑制し、発症しても症状を軽減させる効果が期待できます。弱毒化されているとはいえずワクチンであるため副作用を起こす可能性があり、すべての人にワクチン接種ができるわけではありません。しかし、帯状疱疹や帯状疱疹後神経痛を予防するために、機会があれば50歳以上でワクチン接種を検討することをお勧めします。

